

2023年（令和五年）

7月14日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (-財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カシドキ10階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>**概況**

6/29～7/5のNYMEX・WTI先物市場は69.79～71.79ドルの範囲で推移した。

7月6日は、金利引き上げ継続に対する警戒感を下落要因、サウジとロシアの8月の追加自主減産の継続発言、米国原油在庫の前週比取り崩し報告を上昇要因に、売り買いが交錯し、ほぼ横ばいだった。8月物終値は前日比0.01ドル高の71.80ドル。

週末7日は、利上げ継続観測による景気減速懸念が続く中、今夏の需給ひつ迫観測の高まり、ドル安進行に伴う原油先物の割安感から、3日続伸した。8月物終値は同2.06ドル高の73.86ドル。

週明け10日は、サンフランシスコ連銀とグリーブランド連銀の総裁の相次ぐ利上げ継続発言やこの日発表の中国の軟調な経済指標で、危機後退懸念が高まり、4営業日ぶりに反落した。ただ、需給ひつ迫観測も根強く、下値は固かった。8月物終値は、前週末比0.87ドル安の72.99ドル。

11日は、米国の利上げは継続するものあと2回で打ち止め、景気後退には至らないとの観測、また、OPECプラスの追加自主減産の継続で今年下期の需給ひつ迫観測が高まり、反発した。8月物終値は、前日比1.84ドル高の74.83ドル。

12日は、米国の6月の消費者物価指数(CPI)の伸びが、対前年比、対前月比でも、市場予想を上回る鈍化、インフレは沈静化しつつあるとの認識から、金利引き上げの終了は近いとして続伸、2か月半ぶりの高値を受けた。ただ、需要期の米国原油在庫の予想を上回る積み増し報告が上値を抑えた。8月物終値は前日比0.92ドル高の75.75ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(8月度)は、6月29日～7月5日の間、73.70～75.90ドルの範囲で推移した。7月6日76.50ドル、7日は77.30ドル、10日78.30ドル、11日78.20ドル、12日79.40ドルで推移した。

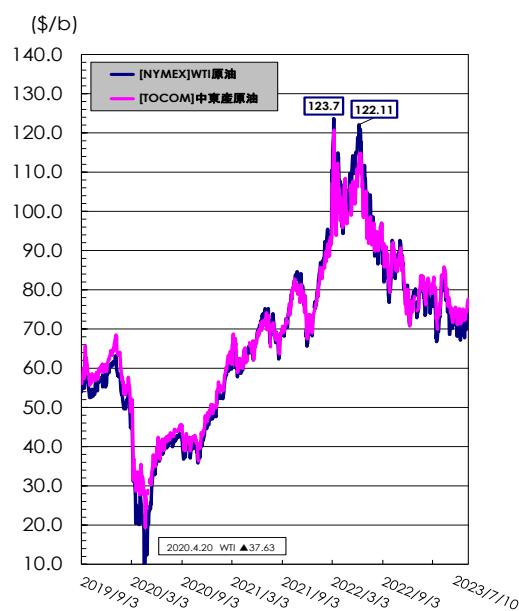
対ドル為替レート(TTM)は、6月29日～7月5日の間、144.35～144.99円の範囲で推移した。7月6日144.44円、7日144.15円、10日142.54円、11日141.46円、12日139.89円で推移した。

財務省が7月7日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、6月中旬の原油輸入平均CIF価格は、72,264円で、前旬比131円安、ドル建て82.21ドルで前旬比1.05ドル安、為替レートは1ドル/139.74円だった。

そのような中で、7月10時点の価格は、ガソリンが前週比0.8円の値上がり、軽油も同0.8円の値上がり、灯油は同11円の値上がり(18リットルベース)であった。ガソリンは8週連続の値上がり、軽油も8週連続の値上がり、灯油も8週連続の値上がりとなった。ガソリンの全国平均価格は173.3円であった。

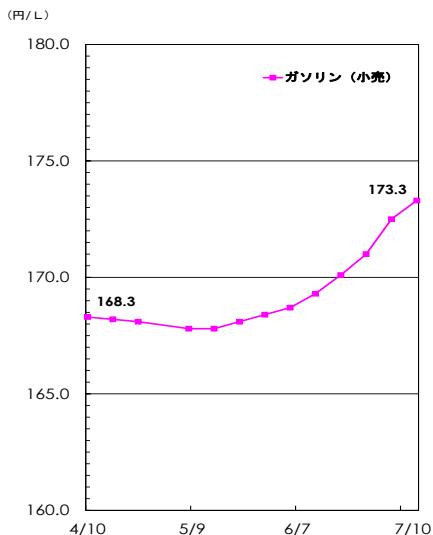
また、7月13日からの燃料油価格激変緩和補助金は40%縮減となり、7月13日～19日の補助金の支給額は10.4円(従来ベースの補助額17.4円)となった。

原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千㎘)	7/2～7/8	2,487	▼ -123	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	67.1	▼ -3.3	▼ -
	原油在庫量 (千㎘)	7/8	12,663	▲ 293	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	7/10	77.62	▲ 3.07	▼ -19.8
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	7/10	72.99	▲ 3.20	▼ -31.1
	原油 CIF単価 (\$/bbl)	6月中旬	82.21	▼ -1.05	▼ -34.71
	①原油CIF単価 (¥/㎘)	"	72,264	▼ -131	▼ -23,613
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	139.74	▼ -1.52	▼ -9.37
外国為替TTSレート (¥/\$)		7/10	143.54	▲ 1.97	▼ -6.07



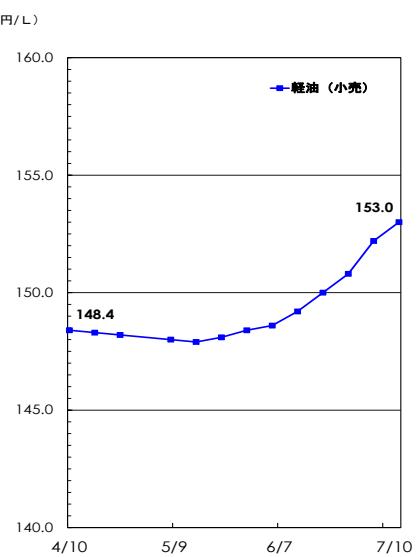
ガソリン		今週		前週比	前年比
		7/2 ~ 7/8	743	▲ 58	▼ -
需給	生産	"	n.a.	n.a.	n.a.
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	789	▲ 66	▼ -
	輸出	"	0	➡ 0	▼ -
	在庫	7/8	1,540	▼ -46	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/4 ~ 7/10	80.9	▲ 1.2	▲ 3.8
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	7/4 ~ 7/10	79.0	➡ 0.0	▼ -6.3
		(TOCOM/中部)	7/10	82.4	▲ 3.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/10	173.3	▲ 0.8	▲ 0.6

※業転、先物価格は税抜き価格

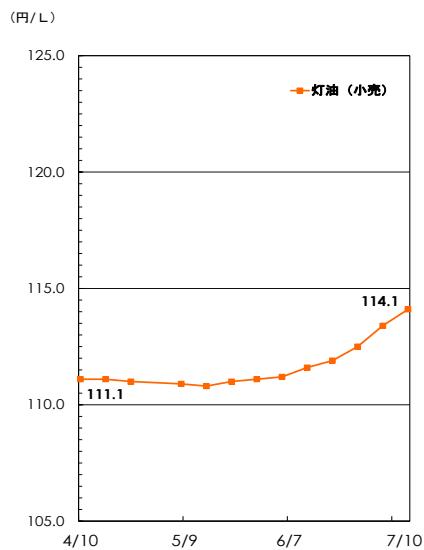


軽油		今週		前週比	前年比
		7/2 ~ 7/8	583	▼ -95	▼ -
需給	生産	"	n.a.	n.a.	n.a.
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	549	▼ -34	▼ -
	輸出	"	91	▲ 19	▼ -
	在庫	7/8	1,387	▼ -57	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/4 ~ 7/10	80.9	▲ 0.2	▲ 4.3
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	7/4 ~ 7/10	83.9	▲ 1.3	▼ -6.0
		(TOCOM/中部)	7/10	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/10	153.0	▲ 0.8	▲ 0.4

※業転、先物価格は税抜き価格



灯油		今週		前週比	前年比
		7/2 ~ 7/8	86	▼ -18	▼ -
需給	生産	"	n.a.	n.a.	n.a.
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	99	▲ 62	▲ -
	輸出	"	0	➡ 0	▼ -
	在庫	7/8	1,547	▼ -13	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/4 ~ 7/10	81.7	▲ 0.3	▲ 5.3
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	7/4 ~ 7/10	78.0	➡ 0.0	▼ -2.0
		(TOCOM/中部)	7/10	83.5	▲ 1.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/10	114.1	▲ 0.7	▼ -0.2



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(7月6日～12日)のWTI石油先物市場は、サウジ・ロシアの減産維持発表で強含みの中、6日の71.80ドルで始まり、週明け10日には4営業日ぶりに反落したが、米国の金利引き上げのあと2回での終了観測が強まり、一週間を通じて70ドル台を維持、12日には75.75ドルで終わった。

一日遅れの7月6日発表の6月30日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間庫統計によれば、原油在庫は前週比150万バレル減と市場予想(100万バレル減)を上回る取り崩しであった。また、12日発表の7日時点の同統計によれば、需要期到来にもかかわらず、原油在庫は市場予想(50万バレル増)を大きく上回る590万バレルの積み

増しであった。

EIAによると、7月10日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比1.9セント値下がりの1ガロン3.546ドル(134.3円/㍑)と4週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比3.9セント値上がりの1ガロン3.806ドル(143.54円/㍑)と3週ぶりの値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、7月7日時点で、米国内稼働石油掘削装置は、前週比5基減の540基と4週連続の減少。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年7月2日～7月8日に休止したトップ能力は75.7万バレル/日で、前週に対して15.5万バレル/日増加した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は248.7万kLと、前週に比べ12.3万kL減少。前年に対しては25.5万kLの減少。トップ稼働率は67.1%と前週に対して3.3ポイントの減少、前年に対しては4.2ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェットが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/8.4%増、ジェット/19.8%増、灯油/17.1%減、軽油/14.0%減、A重油/15.2%減、C重油/33.8%減。今週のC重油の輸入は0.0万kL(前週比0.0万kL減)。軽油の輸出は9.1万kL(前週比1.9万kL増)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてガソリン、灯油、A重油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では灯油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は78.9万kL(前週比9.0%増)と3週振りに増加した。ジェット4.0万kL(前週比10.1%減)、灯油9.9万kL(前週

169.4%増)、軽油54.9万kL(前週5.8%減)、A重油19.5万kL(前週比14.6%増)、C重油16.6万kL(前週0.0%増)。

	(単位:千kL)		
	今週 (7/2 ~ 7/8)	前週 (6/25 ~ 7/1)	前週比
ガソリン	789	723	▲ 66 (9%)
ジェット燃料	40	44	▼ -4 (-9%)
灯油	99	37	▲ 62 (168%)
軽油	549	583	▼ -34 (-6%)
A重油	195	170	▲ 25 (15%)
C重油	166	166	◆ 0 (0%)
合 計	1,838	1,723	▲ 115 (7%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

7月8日時点の在庫はジェットが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては全ての油種で増加した。

ガソリンは154.0万kL、前週差4.6万kL減。前年に対しては17.0万kL多い。

灯油は154.7万kL、前週差1.3万kL減。前年に対しては14.2万kL多い。

軽油は138.7万kL、前週差5.7万kL減。前年に対しては10.6万kL多い。

A重油は65.3万kL、前週差4.7万kL減。前年に対しては3.6万kL多い。

C重油は188.8万kL、前週差6.4万kL減。前年に対しては11.9万kL多い。

	(単位:千kL)		
	今週 (7/8)	前週 (7/1)	前週比
ガソリン	1,540	1,586	▼ -46 (-3%)
ジェット燃料	760	759	▲ 1 (0%)
灯油	1,547	1,560	▼ -13 (-1%)
軽油	1,387	1,444	▼ -57 (-4%)
A重油	653	700	▼ -47 (-7%)
C重油	1,888	1,952	▼ -64 (-3%)
合 計	7,775	8,001	▼ -226 (-2.8%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

7月4日～10日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートはわずかな円高であったが、元売会社の円建て原油コストは1.5円の値上がりになったものと見られる。

上記コストに先週の補助金額10.1円を加え、今週の補助金10.4円を差し引いた、7/13～7/19の実質卸売価格は1.2円の値上げとなつた模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

7月4日～10日の製品スポット市況は、6月27日～7月3日平均と比べ、ガソリンと灯油の先物取引の横ばいを除いて、他の油種・取引で値上がりした。

直近週(7/4～7/10)の陸上スポット価格平均値は、前週(6/27～7/3)比で、ガソリンは1.2円の値上がり、灯油も0.3円の値上がり、軽油も0.2円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(7/4～7/10)に、前週(6/27～7/3)比で、ガソリンは1.0円の値上がり、灯油も1.4円の値上がり、軽油も0.6円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油も横ばい、軽油は1.3円の値上がりだった。

		(単位:円/㍑)		
[陸上ローリー 4地区平均]		今週 (7/4～7/10)	前週 (6/27～7/3)	前週比
ス ポ ッ ト 価 格	レギュラー	80.9	79.7	▲ 1.2
	灯油	81.7	81.4	▲ 0.3
	軽油	80.9	80.7	▲ 0.2

		(単位:円/㍑)		
[期近物/終値 [平均]]		今週 (7/4～7/10)	前週 (6/27～7/3)	前週比
先 物 価 格	レギュラー	79.0	79.0	➡ 0.0
	灯油	78.0	78.0	➡ 0.0
	軽油	83.9	82.6	▲ 1.3

※上記価格は税抜き価格

参考値 (7/4～7/10実績値) (単位:円/㍑)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.2	➡ 0.0	▲ 0.6
灯油	▲ 0.3	➡ 0.0	▲ 0.2
軽油	▲ 0.2	▲ 1.3	▲ 0.7
A重油	▲ 0.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

7月10日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.8円高の173.3円、軽油も0.8円高の153.0円、灯油も18.8%ベースで11円高の2,053円(18.8%ベースでは0.7円高の114.1円)。ガソリンは8週連続の値上がり、軽油も8週連続の値上がり、灯油も8週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは41都道府県、横ばいは1県、値下がりは5県だった。全国最安値は徳島県の167.9円、その次は青森県の168.0円であった。他方、最高値は長野県の182.4円だった。最も値上がりしたのは東京都(前週比2.4円高)、横ばいは高知県、最も値下がりしたのは山梨県(前週比0.5円安)だった。

次回調査時(7/18)のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

(単位:円/㍑)				
(資源庁公表) [週動向]	今週 (7/10)	前週 (7/3)	前週比	直近高値
小 売 価 格	レギュラー	173.3	172.5	▲ 0.8
	灯油	114.1	113.4	▲ 0.7
	軽油	153.0	152.2	▲ 0.8

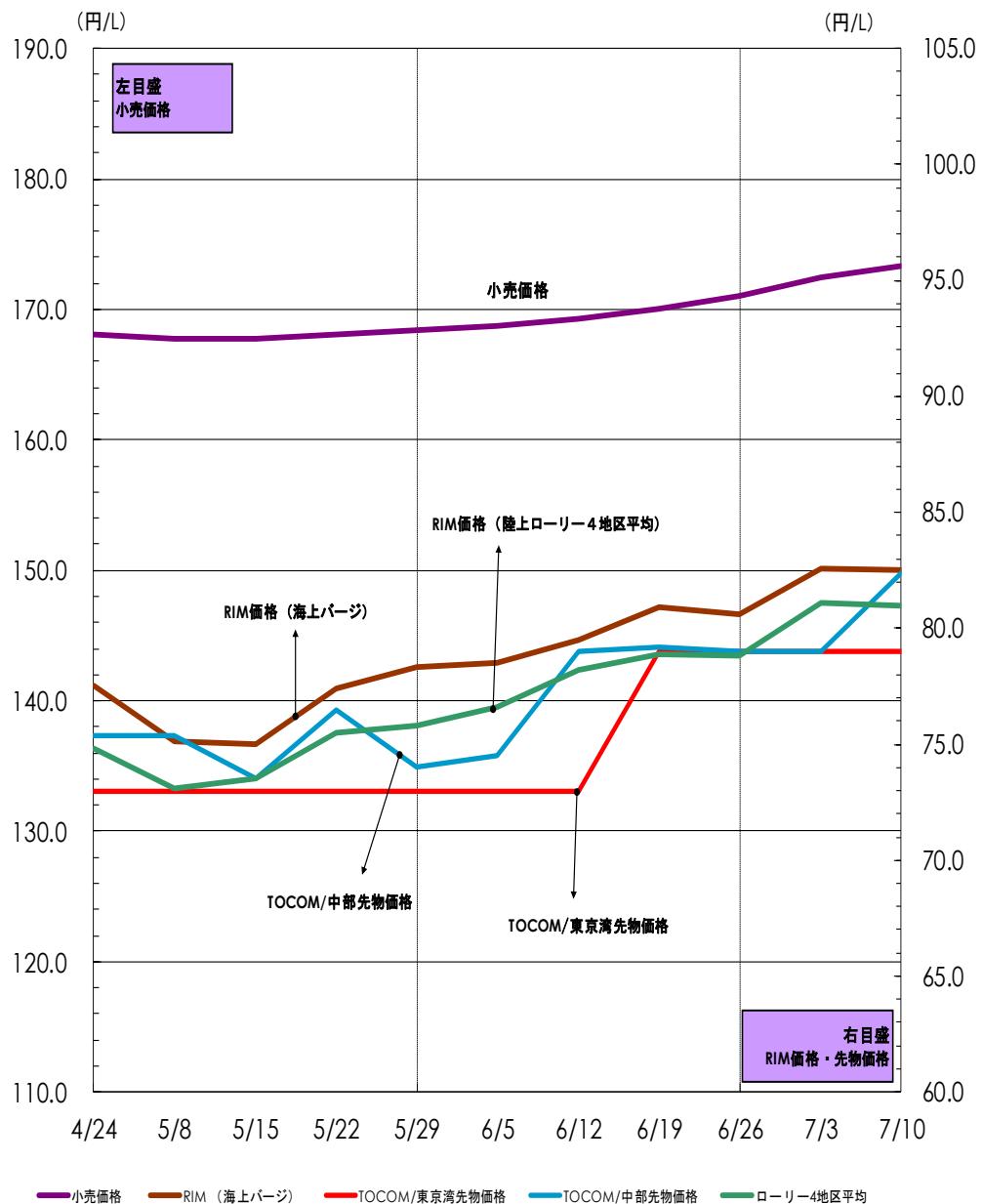
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/4/24 ~ 2023/7/10)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格

②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回（2023第15号）の公表は、7/21（金）14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。※「二番限（翌月限）」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate : 中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。